

第4号議案 2015年度 事業計画案

1. 法人の運営に関する事項

(1) 通常総会の開催

日時、場所:2015年5月21日(木) 17:00～ 市民のわかやま 事務所にて。

(2) 理事会の開催

理事会を随時、開催する。

(3) 事務局業務について

引き続き、和歌山市橋丁の事務所にて事務局業務を行い、必要時に事務局会議を開催する。週に1回、事務局スタッフの定例会議を開催し、効率よく業務を遂行できるようにする。

2. 事業に関する事項

(1) インターネットを利用した各種講座や現地スクーリング講座の運営支援事業(市民塾事業)

① わかやまインターネット市民塾事業(自主事業)

A) わかやまインターネット市民塾講座、スクーリング

市民のわかやまが法人設立当初より管理運営しているわかやまインターネット市民塾を引き続き自主事業として継続する。

前年度より開講中の講座に加え、2015年度には、以下の講座を開講予定である。(順不同)

・「大人大学」で開催した各講座

・「(仮)化学物質過敏症について」:道本みどりさん

また、今までの市民塾で公開した講座の利活用を目指して、スクーリング等を実施する予定である。

B) きのくに県民カレッジ

引き続き今年度も市民塾の一部の講座を「きのくに県民カレッジ」に登録する。

(2) まちづくりの推進、伝統文化芸術等の普及・継承を目的としたイベントなど種々の事業

① 遊休不動産再生活用推進事業

「遊休不動産再生活用推進事業」は、「まちなか」に多数存在する遊休不動産をリノベーションという手法によって、魅力ある姿に再生活用し、さらに産官学民が協力して継続性のある魅力的な事業に育ててゆくことにより、まちなかで「雇用が確保できる事業」として確立することを目指すものである。(4月

～3月、和歌山市産業まちづくり局 商工振興課事業)

今年度は、前年度に引き続き、リノベーションスクールの実施(11月に3日間)によって、リノベーション手法の有効性を研究、確認していくことを通じて、まちなかエリアの価値向上に寄与する人材を育成するとともに、リノベーションによって、「まちなか再生」に対する興味を喚起し、賛同する遊休不動産オーナーの発掘に努めていくこととする。

② まちなか魅力発見マップ作成事業

人々が集まり、賑わいを創り出せるような魅力ある店やスポットなどを探索、マップ化し、広くPRする補助事業に応募する予定である。今年度は「和歌山城の見えるスポット」をマップ化する予定である。(和歌山市産業まちづくり局 商工振興課補助事業)

③ 景観まちづくり推進事業(自主事業)

前年度に引き続き「景観まちづくりの推進」事業を自主事業として継続する。

今年度は、

- ・情報発信サイト「きのくに風景讃歌」のコンテンツ充実
 - i. みどころ紀州路、アーカイブ等の充実
 - ii. ふるさとフォトグラファーの増加

等を実施したい。

また、以前より自主事業として実施している「まちづくり事業」も本事業や他の事業と連携して、継続した活動を行う予定である。なお、「日本風景街道熊野ホームページ作成事業」は、残作業以外は昨年度末で事業を終了した。

参考:きのくに風景讃歌:<http://www.kinokuni-sanka.jp/>

参考:日本風景街道熊野:<http://www.kumano-yorimichi.com/>

④ 紀の川流域の文化遺産を活かした地域活性化事業

当事業は、2013年、2014年度は「和歌山県文化遺産活用活性化委員会」の一員である「紀の川流域文化遺産活用地域活性化協議会」が実施したが、今年度は直接「紀の川流域文化遺産活用地域活性化協議会」が事業を実施する予定である。(文化庁事業)。「市民の力わかやま」はこの事業に直接関係はないが、今年度も市民の力わかやまの理事及び事務局員が当該協議会に協力する予定である。

今年度は、高野山開創1200年を迎え、さらに2016年にはNHK大河ドラマ「真田丸」が放送されるなど、ますます注目の地域である。2年間にわたり展開してきた調査等をさらに発展させ、紀の川流域の道に関する集大成として、紀の川を南岸に渡り、紀南に至る道について、南海道としての意味合い、高野・熊野参詣道との繋がりを調査し、紀の川流域を面としてとらえ、各所に残る文化遺産を南海道という線をつなぎ、それらが時代とともに移り変わる様子を作り上げる予定である。

⑤ わかやまイベントボード事業(自主事業)

前年度に引き続き「わかやまイベントボード」を自主事業として管理・運営を行う。さらに他の事業との連携を進める。サイトの改善、主催者登録団体・アクセス数など増加するようにする。

またイベントボードサイトに広告等を掲載することにより管理・運営費用を捻出できるよう努力する。

参考:わかやまイベントボード :<http://eventboard.shiminjuku.jp/>

同 携帯サイト :<http://eventboard.shiminjuku.jp /m/>

⑥ 湯浅町商工会(TMO)活性化新中期5ヶ年計画策定業務

湯浅町商工会の委託を受け、「湯浅町商工会(TMO)活性化新中期5ヶ年計画策定業務」を実施する。
(4月～5月予定、湯浅町商工会)

(3) 教育の機会が失われている住民への教育機会の提供及び教育環境の改善事業

① IT普及事業(自主事業)

前年度に引き続き、以下のIT普及事業を自主事業として継続実施する。具体的には以下のようなIT講習等を実施する。

・チャレンジ塾:毎週水曜日に3コマ(1コマ80分)を実施(通年)

・きのくにふれあい学習研究会のメンバーとして「IT初めの一步講座」(初心者向けの少人数IT講習会)を月2回程度実施。(場所:文化情報センター)(通年)

参考:チャレンジャーin和歌山:<http://www.shimin.or.jp/challenge/>

(4) その他この法人の目的を達するために必要な事業

① テレワーク事業(自主事業)

前年度に引き続き、テレワーク事業をさらに継続、発展させる。多くの企業等からの受注を目指すとともに、テレワーカー発掘・養成しそのネットワーク構築を目指す。

② 医療情報関係事業

前年度に「NPO法人和歌山地域医療情報ネットワーク協議会」(略称Wamina)とともに医療情報関係事業等を継続実施する。

③ WIDA事業

前年度に引き続き、和歌山県情報化推進協議会(略称WIDA)の事務局業務を担い、協議会の活性化を図ることにより、和歌山県の情報化推進に協力する。(通年)

事務局としては前年度と同様のWIDAの活動を事務局としてサポートする。

参考:和歌山県情報化推進協議会:<http://www.wida.jp/>

④ 橋本市・ひととまち・オープンデータ活用事業(仮称)

橋本市と伊都振興局管内の他市町村とともに、「橋本市・ひととまち・オープンデータ活用事業(仮称)」を実施する予定である。(7月～3月予定、伊都振興局「地域・ひと・まちづくり補助事業」に応募中)

この事業は、広く地域から、中学生や高校生の若者世代から高齢者世代まで、橋本の魅力を知りたい人・伝えたい人を募り、橋本まち歩きオープンデータソンを年3回(夏・秋・冬)実施し、得た成果をLocalWiki、Wikipedia 及び OpenStreetMap 等誰もが自由に参加、編集できるコンテンツを通じて公開し、街の良さを思い出すきっかけ、橋本のことを大切にする人を増やすきっかけとし、Uターン者の増加に向けた動機付けの契機とすることを目的とする。

また、東京大学及び一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が行う「アーバンデータチャレンジ」等既存のデータ活用コンテストにおいて、「橋本市長特別賞」を設定することにより、橋本市を題材としたアプリケーション、データ、アイデア等を効率的に募集し、地域課題の解決を目的としたアプリケーションの開発等の促進を図るものである。

⑤ その他事業

・前年度に引き続き、大人大学推進協議会(和歌山大学、紀陽銀行、和歌山リビング新聞社)主催の「大人大学」に協力する。また本講座を市民塾講座として編集、公開の予定である。

参考:大人大学:<http://www.living-web.net/otona/>

・NPO等支援事業(自主事業)

NPO法人、ボランティア団体、市民の力わかやま正会員、その他必要とする個人・団体の方々などに活用していただけるよう、市民の力わかやまが所有するICT機器、音響機器、通信機器などを貸し出しする仕組みをさらに充実させる。

⑥ その他

(ア) 他の市民塾との連携

「NPO法人地域学習プラットフォーム研究会」の一員として、共同の事業を行うとともに、他の市民塾グループとの連携、交流を図る。

参考:地域学習プラットフォーム研究会:<http://shiminjuku.org/>

(イ) 他のNPO法人や地域活動団体等との交流・連携・支援

引き続き、県内各地のNPO法人や地域活動団体等との交流・連携を図る。

(ウ) 市民の力わかやまサイトの運営

引き続き、市民の力わかやまのサイトを維持管理する。

参考:市民の力わかやま:<http://shimin.or.jp/>

以上